

10/1 京都学生反戦集会 (乙 時計台) (主催: 集会実行)

C教授会追及行動 (乙 半) (EZ)

全ての学生諸君！ 10-乙京都学生反戦集会、C教授会追及行動への結集を呼びかける！

「侵略の進出」の教科書問題のことから話を始めよう。ちょっと古いんじゃない？という人もあるだろう。確かに外交的には「泥着」がついた。しかし、それで問題は解決したの？

日本は過去の戦争において侵略者であつた(南京大虐殺、朝鮮人強制連行、石井部隊...)だけでなく、「経済協力」という美名のもとでの侵略は、今なお続いている。みんなが毎日生協でくってるあのバナナ、多国籍企業の支配の下、フィリピン農民の血を吸い育つ帝国主義的果物なのである。

ソウル大の学生は「日本帝国主義打倒！」を叫んだ。これこそ問題への唯一正しい解答である。

日帝の侵略戦争準備許すな！

世界各地での民族解放斗争、「先進」諸国をおおつた不況・インフレの同時進行に苦む日本帝国主義は、その侵略体制の再編強化を狙っている。後年度負担等のトリックを計算に入れば、7.75%どころか28%増にもなる大増徴を進め、「シーレーン防衛」「極東有事対応」等、韓国・東南アジアでの既得権をヨウ護・拡大するための侵略軍として自衛隊を強化しつつある。

国内においては、労働者人民への抑圧を一層強め、侵略のための国民の合意作り・体制づくりとして、エネルギー危機キャンペーン、行革、右翼的労戦統一、刑法・憲法改「正」等が進められている。

学園治安管理攻撃に反撃を！

こうした国内再編の一環として、大学再編がある。ここ京大においても、吉田・熊野二寮に對する廃寮

化攻撃、学内治安管理攻撃とそれは具体的にあらわれている。かつての学園斗争の総括の下、寮を学生管理の場として積極利用しようとする国一当局にとって寮自主管理を貫徹してきた吉田・熊野二寮のような存在は目の上のたんこぶである。こういった寮をつぶし、筑波大型の漸々寮(①完全個室 ②食堂がない)学生が集まれないようにする。③寮生に自治権がない ④負担区分適用——「貧乏人は大学にこない」とは某学生部職員のことば)にしてしまおうというのが当局の狙いだ。

7/7竹本処分以後、学内においても治安管理が強化されてきた。この夏休みには学生のいけいけをいいことに、貼紙防止剤をC正門・A号館などに塗布し、さらには立着台を撤去し持ち去るという暴挙にでた。のちのC事務追求の過程で明らかになったことだが、この貼紙防止剤塗布には430万円も出ているにも拘らず老朽化した尚書館修理には一銭も金を出さず、いつかは取りこわすという。このように「ものいぬ学生」に對しては言論弾圧を加え、治動拠点を奪い、単位制強化等によりただお勉強するだけの「ものいわぬ学生」を作り上げようというわけだ。

この一連の管理強化の最高責任者である教養部長渡辺(時計台からの命令があったとの情報がある)に對する

C具威

し、我々は去る9月18日田交を行ない、学生に無断で一方的に言論弾圧を加えたことについて自己批判を克ち取った。尚賢館については、学生控室として認め、学生に無断で一方的なとりこわしをしない、ということが確認された。以下は 全学自治会同学会と教養部長との9月18日の確認文書の写しである。

1. 教養部当局が、学生に無断で貼紙防止剤を塗ったことに対して学生に言論弾圧ととられる結果になったことは遺憾である。
2. 尚賢館は学生控室である。
今後とも今までどおり学生控室として保障する。
教養部当局は尚賢館を使用している学生を無視して一方的な取り壊しを行わない。
3. 以上のことを次回教授会に報告する。

以上のことについて

学生部の仲介のもと、教養部長渡辺寛と全学自治会同学会との間で合意がとれたことを立会人として確認する。

1982年9月18日

学生課教養掛長 佐々木菊麿

教養部学生連絡委員長 酒井幸三

これらの確認事項を単なる言葉だけの約束に終わらせないため、「次回教授会」すなわち、きたる10・21国際反戦デーのその日、我々は、管理強化完全粉砕！ 対C教授会行動を決行する。全学のかでC当局を追求し治安管理攻撃を粉砕しよう。これこそ侵略の道を阻止する、具体的なかとなり得るのである。

関西では、産学協同の一大拠点、関西学術研究都市構想が、京大歴代総長らの手によって進められている。

また京大においては、熱帯からの収奪の効率化を研究する熱帯農学講座新設など侵略のための研究再編も進められつつある。能取原子炉実験所では、放射性廃棄物海洋投棄計画などの反人民的研究が行なわれている。アジア・アフリカ・ラテンアメリカ人民に敵対する侵略抑圧の岩京大を内側から解体すべく、大学再編攻撃を粉砕し、自国帝国主義に対する反戦斗争に決起していこう。

10・21京都学生反戦集会—対C教授会追求行動へ！

吉田寮生による

やぐら斗争

断固支持 